

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立湊中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>全職員が授業を公開し、「授業の導入の工夫」や「授業のまとめ」について校内研修で協議し、「わかる授業」の実践・改善に取り組むことができた。</li> <li>毎月の生活アンケートや生徒指導協議会を実施し、生徒についての理解を深めた。</li> <li>令和3年度も引き続き、特別支援教育の視点から生徒理解に努め、教育活動を通して豊かな心を育み、共に成長できる学校づくりを行いたい。</li> </ul>
2 学校教育目標	他者を尊重し、21世紀を共に逞しく生き抜く力を育てる。
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 授業・進路指導の充実によって確かな学力を育み、生徒の進路保障を図る。</li> <li>(2) 教育活動全体を通して豊かな心を育み、生徒の人的成長を図る。</li> <li>(3) 学校体育・学校保健等の充実によって健やかな育み、生徒の逞しい成長を図る。</li> </ul>

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1) 共通評価項目									
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	●教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	A	●感染拡大防止のため、話し合い活動を制限した部分もあったが、可能な限り対話する活動を設定した。 ●学習状況調査の結果などから、子どもの最終的な記述(表現)する場面を増やす必要がある。	A	●学力向上に向けて、それぞれ教員が意識を高くもって取り組み、おおむね成果目標(数値目標)を達成できた。	A	●今年度以上のタブレットの活用に来年度は期待。
	○全職員による研究授業の実施	○主体的・対話的で深い学びを視点とした授業改善は、生徒の学力向上に寄与している。」と思う教職員が80%以上		A	●年間計画で予定していた校内研究授業を行い、指導法の改善を図っている。全職員が取り組むように進んでいる。	A	●事前協議はできないことが多かったが、全職員の校内研究授業を行うことができ、授業改善につながる後進となった。 ●数値目標に挙げている項目への教職員の回答が100%肯定的であった。	A	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした生徒90%以上	●各学年担当で、年間計画に沿って道徳の授業を実施する。 ●道徳に関するアンケートを実施する。	A	●7月のアンケートで、「安心して学校生活を送り、自分のことを肯定したり、他の人も大切にしていると思う」に94.5%の生徒が肯定的な回答をしていた。 ●引き続き、各学年で生徒の豊かな心を育む道徳の授業に取り組んでいきたい。	A	●2月のアンケートで、「安心して学校生活を送り、自分のことを肯定したり、他の人も大切にしていると思う」への回答が100%肯定的であった。 ●全職員が道徳の授業をすることで、いろいろな視点から生徒の心を豊かにする授業を実践できた。	A	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 ●積極的な生徒指導、開発的な生徒指導による生徒の心の教育	○いじめ防止等について組織的対応ができていないと回答した教員88%以上	●定期的に全校生徒に生活アンケートを行い、生徒の学校生活を把握する。	B	●生徒へのアンケートを毎月実施し、気になる回答があった際には、担任をはじめとし、職員による声かけや見守り等ができた。 ●今後職員へのアンケートを実施し、組織的対応についての検討が課題。	A	●生活アンケートを毎月実施、担任からの声かけ等ができた。 ●週に一度の部会、月に一度の全体会において情報交換を実施し、生徒の気になる様子を早期に共有できた。 ●職員アンケートでは、組織的対応や体制づくりについて100%が肯定的な回答であった。	A	●地域を含めた組織的対応も必要。
	◎生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上	●個人面談の実施によって、生徒の能力・適性等に応じた進路指導を充実させる。 ●高校の情報提供や職業体験等を通して、生徒の進路意識を高める。	A	●総合的な学習の時間を使って、キャリア教育を主で行い、徐々に進路を意識し進路が未定の生徒が少なくなっている。	B	●「自分の夢や、進路目標を持っている」と答えた生徒は、54.5%に留まった。 ●学校の支援について、保護者の82.9%は肯定的であるので、保護者の協力も得ながら意識を高めていくことが課題である。	B	●保護者の協力が必要。 ●SNS、YouTube等を使っていろいろな職場の映像を見ることで、進路目標を持ってもらいたい。
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ④「安全に関する資質・能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒80%以上 ③「健康に食事は大切である」と考える児童生徒90%以上 ④児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	●部活動や社会体育活動の励行 ●積極的な情報発信、関係者評価の実施、地域ネットワークの活用等により、基本的な生活習慣の重要性を伝えていく。 ●自転車の整備点検、交通安全教室の実施。	B	●部活動では週に2回の休養日を確保しながら経営ができています。 ●1学期に自転車通学時の転倒事故が2件発生。車面への接触などの事故ではなかったが、鞆をカゴに入れておりハンドルが不安定になっていた。歩道に障害物があり、よけた際に段差にハンドルを取られるなどの要因が見られた。事故現場に赴き、今後に向けて安全確認を実施。	B	●部活動では休養日を確保しながらの経営ができた。部活動や社会体育に所属している生徒が66%で授業以外の運動の機会を得ている。しかし、課外日の活動を見ると生徒のみで活動している部活動もあつた。安全面を考慮して活動中の顧問の同席を徹底したかった。 ●2学期以降、事故の発生はなかった。学期の始めに登校指導を行い、安全指導を心がけることができた。 ●「健康に関する意識調査」によると、100%の生徒が「健康に食事は大切である」と解答した。今後も給食だよりや保健だよりを用いて、健康的な食生活の大切さを発信する。	B	●部活動を通して、仲間、人間関係を学んでもらいたい。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	B	●部活動休養日の設定は定着している。 ●定時退勤日に業務が残り、速やかに退勤できないことがあつた。業務改善をさらに進める必要がある。 ●各職員の校務システム及びデジタルデータの利活用が進展した。来年度も効率化が期待できる。	A	●新型コロナウイルス予防の観点から土日等の部活動の時間が減少し、時間外在校時間が縮減された。 ●新教育システム及び校務システム、さらに一人一台端末の利活用が進み、業務の効率化ができた。	A	●一人一台端末の利用を進めてほしい。

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目									
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○開かれた学校づくり	○ICTを活用した情報発信	○「学校は情報発信に努めている」と回答する保護者の割合を80%以上にする。 ○はなまる連絡帳の月間アクセス数を前年比2倍以上にする。	●湊中HPのコンテンツを増やす。 ●はなまる連絡帳の掲示板を活用し、情報発信量を増やす。	A	●はなまる連絡帳掲示板のアクセス件数は、R2年度は月に100件以下だったが、10月と11月は900件超となっており、十分達成している。 ●学校HPのコンテンツの拡充と更新の頻度をさらに高める必要がある。	A	●はなまる掲示板のアクセス件数は、R2年度と比べ6倍以上であり、十分達成している。 ●新聞各紙およびサガテレビやCATVで生徒の学習活動が度々広報された。 ●紙媒体での広報活動も充実させたい。	A	●地域活動も含めて広げてほしい。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>県学習状況調査(12月)において中1では5教科中4教科で県通過率を上回った。また、2年・3年においても改善の傾向が見られる等、学力向上の取組の成果が表れた。</li> <li>教育活動全体を通して生徒の豊かな心を育むことができた。引き続き、いじめの防止及び早期発見と対応にも取り組んでいく。</li> <li>コロナ禍のため、職場体験等キャリア教育についての体験的学習活動が実施できなかった。「自分の夢や、進路目標を持っている」と答えた生徒は、54.5%に留まった。1人1台端末も活用する等工夫をしながら、志を高める教育を推進していきたい。</li> </ul>
----------------	--